

聖書の原文は、旧約聖書がヘブライ語（一部アラム語）、新約聖書はギリシア語で書かれています（展示①、②）。時代とともに数多くの言語に翻訳され、2020年10月時点でその言語数は聖書全巻の翻訳が704言語、部分訳を含めると3,415言語とされています¹。



最初の日本語聖書は、1837年にシンガポールで木版印刷された、ギュツラフ（1803-1851年）の「約翰福音之傳」（ヨハネ福音書）と言えるでしょう（ただし、キリシタン時代に四福音書やカテキズムなどの翻訳があったと推察されています²）。ギュツラフはイギリス商務庁の首席通訳官としてマカオに赴任した際、3人の日本人漂流船員（岩吉、久吉、音吉）と出会い、彼らの協力を得て、下記に見るモリソンの漢訳聖書を頼りに、翻訳作業に従事しました。「ハジマリニカシコイモノゴザル」で始まる全文カタカナです（展示③）。原本（元版）が、1938年8月18日アメリカン・ボードから同志社大学に寄贈されています（展示④）。その後、日本語聖書の翻訳は、S. W. ウィリアムズ訳（1830年代半ば頃）、B. J. ベッテルハイム訳（1855年頃）（展示⑤）、S. R. ブラウン・ヘボン訳（1870年代前半）、ゴープル訳（1871年）、N. ブラウン訳（1879年）などによって継承されていきます。

当時、日本語がよく分からない宣教師たちは、翻訳作業にたいへん苦勞しました。彼らにとって、すでに流布していた漢訳聖書はとても貴重な助けとなったようです。ヘボンやブラウンも漢訳聖書から和訳を試み、西洋キリスト教的な価値観や概念をアジア的な文学的表現へと移し変えていったようです。漢訳聖書の先駆けはロバート・モリソン（1782-1834年）と言えるでしょう。彼は、1807年にロンドン宣教会から広東に派遣され、1823年にマラッカで旧新約聖書の漢訳『神天聖書』を刊行します（展示⑥、展示⑦）。1824年イギリスに帰国したモリソンはギュツラフに出会い、聖書翻訳と極東アジア宣教の使命を彼に託します。1832年ギュツラフは琉球を訪れた際、モリソン訳聖書を配布しています。一方、E. C. ブリッジマン（1801-1861年）とM. S. カルバートソンは、1843年香港で開催された宣教師会議の決定（「セオス」を「神」ではなく「上帝」と訳出など）に納得せず、1851年から独自の漢訳聖書に着手し1861年に新約聖書、1863年に旧約聖書を完成させます（展示⑧）。なお、ブリッジマンはアメリカン・ボードから上海に派遣された宣教師で、聖書の漢訳だけでなく漢文で『連邦志略』（アメリカの地歴書）を著し、この本は、新島襄に大きな影響を与えました。新島が上海からボストンへ渡航した際、途中で寄港した香港で漢訳の聖書を購入していますが（1864年）、どの漢訳聖書であったかは特定できていません。

1872年、日本在留の改革派、長老派、会衆派などの宣教師たちは、ヘボン宅で第1回宣教師会議を開催し、新約聖書の共同翻訳の事業を計画します。同年に日本における最初のプロテスタント教会（横浜公会）が設立されています。キリシタン禁制の高札が撤去される1年前でありましたが、すでに日本宣教と日本語聖書翻訳の準備が着々と進められていたのです。この共同翻訳のプロジェクトは、その後米英の聖書協会日本支社の働きを通して進められ、最終的には現在の日本聖書協会（1937年設立）へと引き継がれていきます。

このように、多くの先人たちの献身的な宣教と翻訳業のお陰で、いま私たちは日本語の聖書を手にすることができるのです。最新の日本語訳聖書として、2018年の「聖書協会共同訳」（日本聖書協会）や2017年の「新改訳聖書」（いのちのことば社）をあげることが出来るでしょう。ギュツラフ訳の「ハジマリニカシコイモノゴザルコノカシコイモノゴクラクトモニゴザルコノカシコイモノワゴクラク」（ヨハネ福音書1章1節）が各翻訳文でどのような日本語になっているのか、また原文のギリシア語も合わせて比較・検討してみると面白いでしょう。カシコイモノは、ギリシア語で「ロゴス」、ゴクラクは「セオス」です。現代では、通常ロゴスは「言葉、ことば、言」、セオスは「神」と訳されています。ブリッジマン・カルバートソン訳ではロゴスを「道」と訳しています。翻訳は、あくまでもその時代に生きる翻訳者たちのひとつの解釈であります。皆さんもご自身の解釈を試みてはいかがでしょうか。

参考文献

海老澤有道『日本の聖書—聖書和訳の歴史—』（日本基督教団出版局、1981年）。

尾山令仁『聖書翻訳の歴史と現代訳』（暁新書、1989年）。

門脇清、大柴恒『門脇文庫 日本語聖書翻訳史』（新教出版社、1983年）。

木田献一「聖書翻訳の歴史—日本における聖書翻訳の歴史—」、木田献一他監修『新共同訳聖書辞典』（キリスト新聞社、1995年）23-30頁。

田川建三「第四章 新約聖書の翻訳」『書物としての新約聖書』（勁草書房、1997年）。

（村山盛葦）

¹ 日本ウイクリフ聖書翻訳協会 HP による。

² 海老澤有道『日本の聖書—聖書和訳の歴史—』（日本基督教団出版局、1981年）34頁他。